

平成29年度 夕陽丘中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2 「大阪府中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

3 「大阪市英語力調査（英検IBA）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟課程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

平成29年度 夕陽丘中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

● 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	164	66.1	57.7	50.8	52.9	53.4	9.4	4.6	16.0	10.3	7.0
	大阪市	—	61.6	54.5	47.9	47.7	46.9	9.3	3.8	13.0	8.9	6.6
6月21日	大阪府	—	61.7	54.4	49.0	47.7	48.4	9.1	3.9	12.8	9.2	6.3
2年	学校											
	大阪市	—										
1月11日	大阪府	—										
1年	学校			—		—			—		—	
	大阪市	—		—		—			—		—	
1月11日	大阪府	—		—		—			—		—	

※ 2年生の社会は A 問題を選択 2年生の理科は A 問題を選択
 ※ 1年生については、国語・数学・英語のみ実施

● 大阪市中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3年	学校	166	66.2	63.0	64.0	64.0	70.6
10月5日	大阪市	—	62.5	55.9	58.5	55.5	60.0

● 大阪市英語力調査(英検IBA)

学年 実施月日		生徒数 (人)	語い 熟語 文法 (%)	読解 (%)	リスニング (%)	英検3級	英検4級	英検5級
						LV以上 (%)	LV以上 (%)	LV以上 (%)
3年	学校	165	70.5	65.0	63.6	69.7	—	—
11月7日	大阪市	—					—	—
2年	学校	145	74.9	65.4	70.0	—	76.8	—
11月7日	大阪市	—						—
1年	学校	138	66.1	63.7	74.4	—	—	90.0
11月7日	大阪市	—						

結果の概要

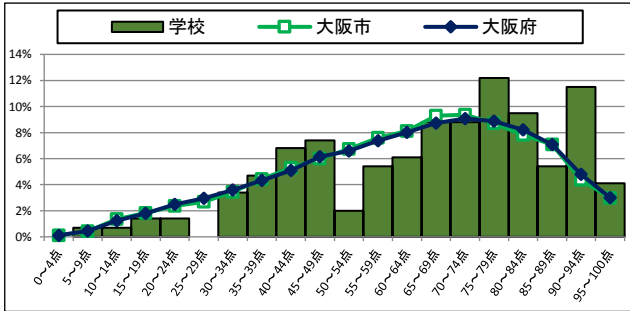
中学生チャレンジテスト(3年)も大阪市中学校3年生統一テストも、全教科において、大阪市や大阪府の平均点を上回っている。しかし、平均無解答率は大阪市や大阪府を上回っており、今後の課題である。大阪市英語力調査に関しては、大阪市平均が公表されていないため、学年末に概要を示す予定である。

成果と今後取り組むべき課題

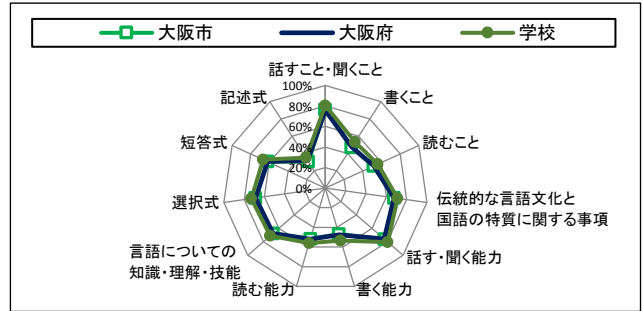
個に応じた指導の充実に努め、基礎学力の定着を図ったことが、平均を上回る結果に結びついた大きな要因のひとつと考えられる。しかし、数学では平均無解答率が大阪市や大阪府より3pt以上も高く、特に、理由を説明する設問や証明問題に関しては50%以上の生徒が無解答であった。記述式の問題にもねばり強く取り組める様に、ICT機器を活用したり、アクティブラーニングを取り入れたりして、自分の考えを発表する場を増やす授業改善を行っていくことが必要である。

【国語】

【得点分布】

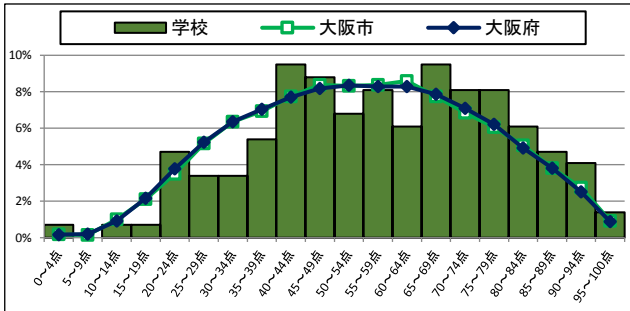


【領域・観点・問題別の分布】

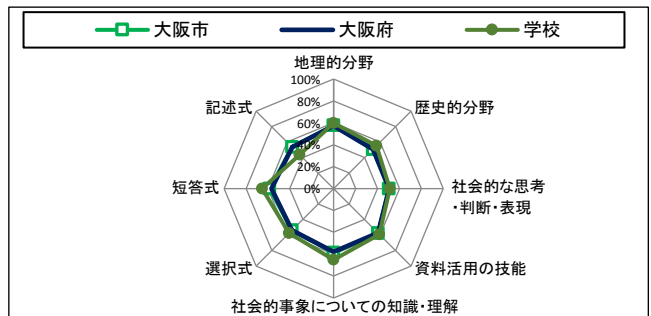


【社会】

【得点分布】

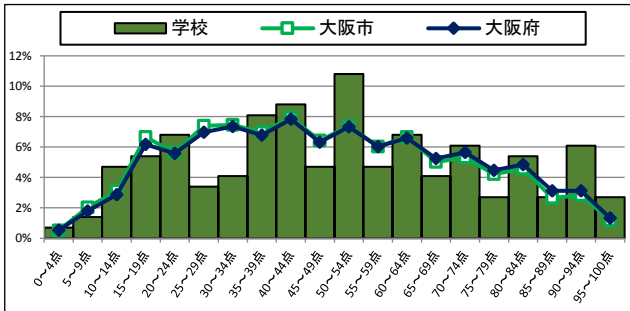


【領域・観点・問題別の分布】

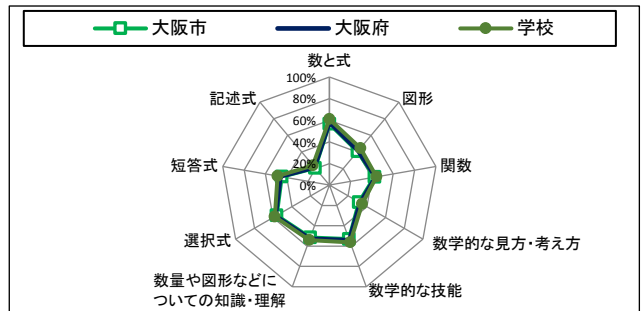


【数学】

【得点分布】

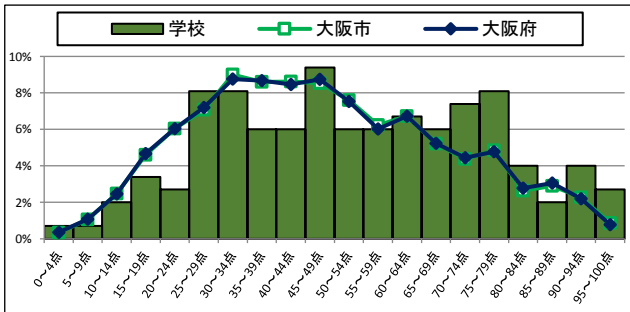


【領域・観点・問題別の分布】

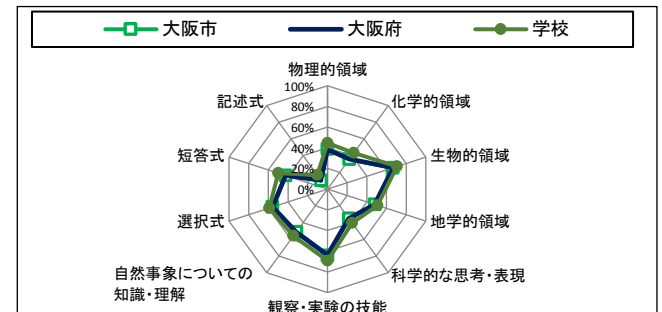


【理科】

【得点分布】

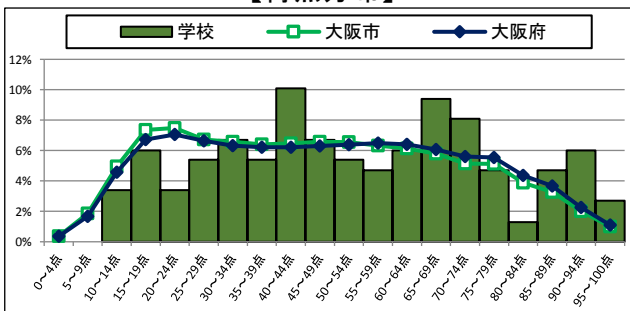


【領域・観点・問題別の分布】

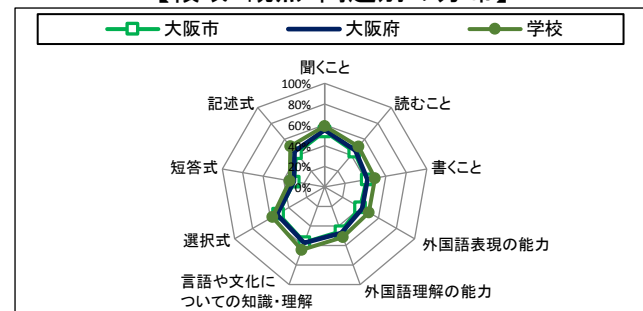


【英語】

【得点分布】

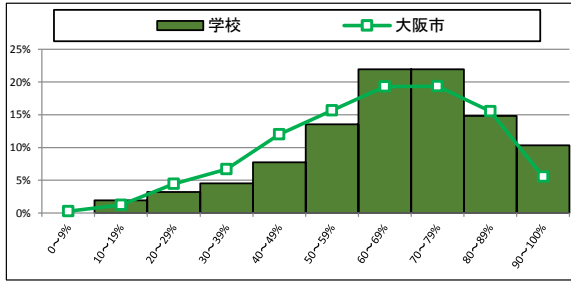


【領域・観点・問題別の分布】

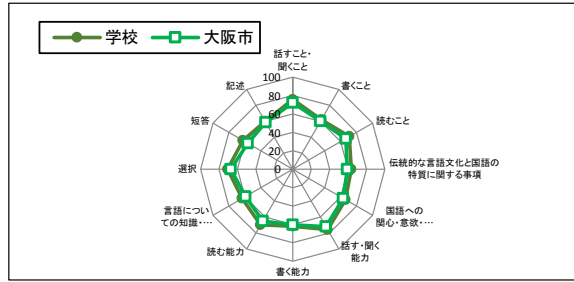


【国語】

【正答率分布】

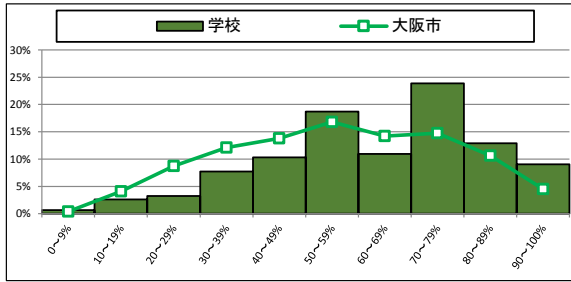


【領域・観点・問題別の分布】

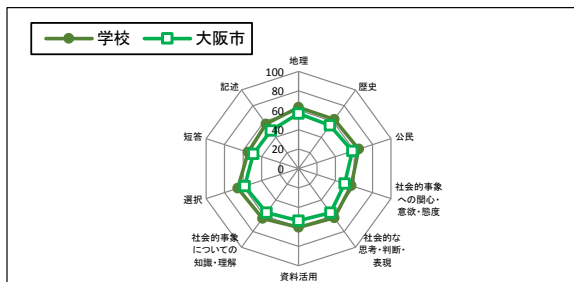


【社会】

【正答率分布】

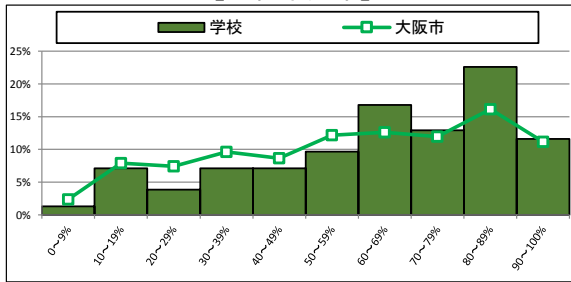


【領域・観点・問題別の分布】

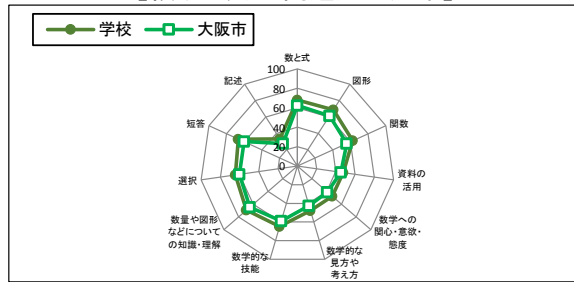


【数学】

【正答率分布】

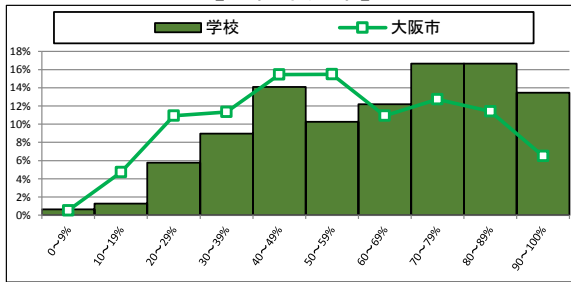


【領域・観点・問題別の分布】

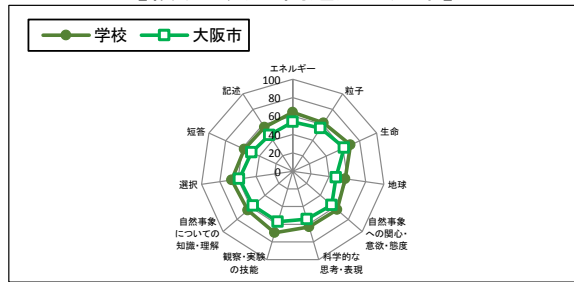


【理科】

【正答率分布】

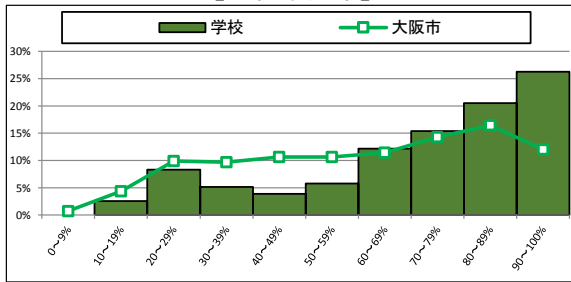


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

